

## 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中濃特別支援学校

学校番号	114
------	-----

### 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人の自立や社会参加、個に応じた就労の実現を目指し、自分のよさを生かして必要な力を培い、自分らしく豊かに生きる力を育成する。</li> </ul>
評価する領域・分野	「教育環境整備」「研修（資質向上の取組）」「教育活動・学習指導」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの教職員における専門性に関して、「よくあてはまる」と「まったくあてはまらない」の両者が増加し、評価の両極化が見受けられる。</li> <li>・アンケートの教材教具における準備に関して、「ややあてはまる」が11%減少し、その他の項目へほぼ均等に2～4%ずつ拡散している。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の観点に基づいた実態把握による主題研究に取り組み、育てたい資質や能力をより一層確実に身に付けられるための授業づくりを推進する。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会を中心に、主題研究に即した授業改善の方向性を提示する。</li> <li>・教科領域会を復活し、各研究グループの取組に新たな知見を付与する。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然とPDCAサイクルが生まれるように指導案の様式を改訂する。</li> <li>・アセスメントシートを用いて自立活動の観点に基づく目標設定を行う。</li> <li>・教科領域会で部を越えた意見交換を行い、各研究の広がりや深まりを図る。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参観者の意見を反映しつつ、過剰支援を極力排除した授業改善</li> <li>・児童生徒自らができる事柄に着目をし、合理的配慮に基づく授業改善</li> <li>・各部の教育活動における情報を得て、より系統性のある支援指導の充実</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が自ら活動できる事柄をより多く取り入れた授業内容の工夫</li> <li>・児童生徒により分かりやすい働き掛けと効果的な視覚支援の提示</li> <li>・長期休業中における所属部や経験年数を踏まえた教科領域会の実施</li> </ul>
評価の視点	評価
①アセスメントシートを活用して、共通理解の図れた目標設定に取り組む。	A B C D
②分かりやすい言葉掛けや自ら活動できる環境設定などの授業改善に取り組む。	A B C D
③他部における教育活動を念頭におき、生活年齢も配慮した授業改善に取り組む。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○共通理解が図れた目標を設定し、PDCAサイクルによる授業改善がとれた。</li> <li>○児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる姿が授業の中で見られた。</li> <li>▲部を越えて題材・教材・サイトの共有・効果的な支援に関わる意見交換はできた。</li> </ul>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに「自立活動実態把握シート」を作成し、よりの確な実態把握を行う。</li> <li>・生活年齢を考慮に入れた指導と評価の年間計画を作成する。</li> <li>・教材データの共有化を図り、よりよい授業改善と働き方改革を推進する。</li> </ul>

### 学校関係者評価 (令和5年2月24日実施)

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員もマスクを着用しているため、その表情が児童生徒に伝わりづらい状態にあることから、教職員の話し声のトーンやしぐさ等における工夫が大切である。</li> <li>・教職員は児童生徒に分かりやすい口調で働き掛けると共に、児童生徒と教職員との双方向性のある授業展開に努め、教職員同士がお互いの授業を参観し合い、他の教職員におけるよい点を取り入れていける機会をより多く設けていくことが好ましい。</li> <li>・ICT機器において、教職員の活用促進と児童生徒の活用機会充実に向け、学校は教職員に対して、さらに後押ししていく体制の整備が必要である。</li> </ul>

## 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中濃特別支援学校

学校番号	114
------	-----

### 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人の自立や社会参加、個に応じた就労の実現を目指し、自分のよさを生かして必要な力を培い、自分らしく豊かに生きる力を育成する。</li> </ul>
評価する領域・分野	「保健管理」「安全管理」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの新型コロナウイルス感染症対策に関して、「よくあてはまる」が6%増加し、「あまりあてはまらない」「わからない」が各3%減少した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の発症情報に関して、コロナハラスメントに留意しながら、関係する福祉機関及び教育機関等の情報共有が整っている。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止に向け、健康で安全な生活を送ることができる環境づくりをより一層推進する。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週開催の主事会において、感染情報の共有とその対応の検討を行う。</li> <li>・校内感染が疑われる場合には、新型コロナウイルス感染症対策委員会を開催し、校内におけるより一層の徹底した対策を全校体制にて講じる。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の感染状況に関して、全教職員において情報の共有を徹底する。</li> <li>・産業医による職場巡視の指摘事項を、電子会議室を活用して周知徹底する。</li> <li>・引き続き学校長より始業式及び終業式において、感染防止の講話を行う。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染状況及びマスクの適切な着用状況の向上</li> <li>・教室等の換気状況及び産業医による指摘事項の順守状況</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年代表者を適宜開催し、校内の感染情報を全教職員で共有</li> <li>・産業医による指摘事項の順守状況をコロナガードが巡視をして確認</li> <li>・全教職員による児童生徒への「鼻までマスク」の言葉掛け</li> </ul>
評価の視点	評価
①新型コロナウイルス感染症の集団による感染発生が抑え込まれている。	A B C D
②児童生徒自ら鼻まで覆ったマスクの着用が習慣として定着されている。	A B C D
③産業医の指摘事項が多い換気とソーシャルディスタンスが維持されている。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○頻度・規模の小さい学級閉鎖は生じたが、大規模なクラスターは生じなかった。</li> <li>○児童生徒自ら鼻まで覆ったマスクの着用が日常的な姿として定着してきている。</li> <li>○産業医より換気及びソーシャルディスタンスに関する指導事項が減少した。</li> </ul>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症予防に留意した指導と評価の年間計画の作成</li> <li>・活動場所における二酸化炭素濃度を絶えず意識した教育活動の展開</li> <li>・家族内感染主流化に伴う新型コロナウイルス感染症予防のPTAとの連携</li> </ul>

### 学校関係者評価 (令和5年2月24日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症のまん延状況は続いてはいるが、「『ごみゼロ』の日に一緒に清掃活動を行う」「軽スポーツを一緒に行う」など、感染リスクの少ない状況下において、児童生徒と地域住民がお互いに楽しめる交流学习を、まずは一緒に行っていくことが大切である。</li> <li>・学校の職員研修において、保護者にとって有益なものに関しては、保護者の参加を可能にしたり、オンデマンド配信をしたりするなど、保護者にも研修の機会を提供してほしい。</li> <li>・「評価の視点」「成果・課題」におけるAからDの評価基準に関して、第三者にも分かりやすいように、別途、詳細な補足資料を今後は提示することが好ましい。</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

